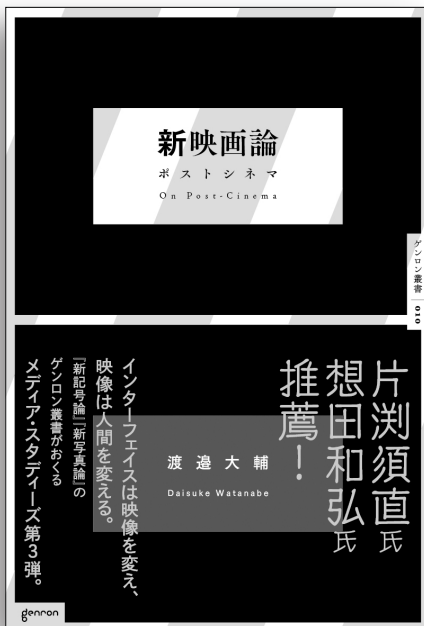


『アイアンマン』『赤毛のアン』『アクト・オブ・キリング』『アドベンチャー・タイム』『アナと雪の女王』『アバター』『アベンジャーズ』『荒川アンダー ザブリッジ』『歩いても 歩いても』『アンフレンドド』『息の跡』『イレブン・ミニッツ』『インターステラー』『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』『ヴィジット』『雨月物語』『打ち上げ花火、下から見るか？横から見るか？』『海よりもまだ深く』『ウルトラマン』『映画 聲の形』『映画 山田孝之3D』『おもひでぼろぼろ』『牡蠣工場』『かくや姫の物語』『崖の上のポニョ』『風立ちぬ』『風の谷のナウシカ』『家族ゲーム』『カメラを止めるな!』『機動警察パトレイバー2 the Movie』『機動戦士ガンダム』『きみと、波にのれたら』『君の名は。』『クリーピー 偽りの隣人』『クローバーフィールド/HAKAISHA』『劇場版 鬼滅の刃 無限列車編』『ゴジラ』『この世界の片隅に』『ザ・ウォーク』『ザ・ビッグハウス』『さらば、愛の言葉よ』『七人の侍』『ジャッキー／ファーストレディ 最後の使命』『ジュラシック・パーク』『ジョーカー』『ジョーズ』『ジョギング渡り鳥』『シン・エヴァンゲリオン劇場版』『シン・ウルトラマン』『シン・仮面ライダー』『シン・ゴジラ』『真実』『新世紀エヴァンゲリオン』『シンドラーのリスト』『親密さ』『ズーム／見えない参加者』『スター・ウォーズ』『スチームボーイ』『スパイの妻<劇場版>』『精神』『ゼロ・グラビティ』『選挙』『千と千尋の神隠し』『全裸監督』『そして父になる』『ダークナイト』『ダイアリー・オブ・ザ・デッド』『ダゲレオタイプの女』『立ち去った女』『たまこラブストーリー』『ダンケルク』『ちびまる子ちゃん』『沈黙-サイレンス-』『デイ・アフター・トゥモロー』『鉄腕アトム』『天気の子』『東京物語』『ダブルゲンガー』『ドライブ・マイ・カー』『ドラゴンクエスト ダイの大冒険』『トランセンデンス』『ドント・ブリーズ』『ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス』『人魚の踊り』『ニンジャバ

サイレントから応援上映までを狩猟し、ポストシネマの美学を切り拓く。
『新記号論』『新写真論』に続く、
新時代のメディア・スタディーズ第3弾。

2/7
発売!!



あらゆる動画がフラットに流通するこの時代に、映像を語ることはなにを意味するか？

ットマン』『ハードコア』『バードマン あるいは(無知がもたらす予期せぬ奇跡)』『化物語』『パシフィック・リム：アップライジング』『バック・トゥ・ザ・フューチャー』『バットマン』『ハッピーアワー』『ハードソンの奇跡』『パラノーマル・アクティビティ』『バンコクナイツ』『美少女戦士セーラームーン Eternal』『美男高校地球防衛部LOVE!』『ピンポン THE ANIMATION』『ファインディング・ドリー』『不完全なふたり』『不気味なものの肌に触れる』『不詳の人』『プライベート・ライアン』『ブレア・ウィッチ・プロジェクト』『ブレードランナー 2049』『ブレスステージ』『ブンミおじさんの森』『平家物語』『ほしのこえ』『ポストン市庁舎』『ポプテピピック』『マイノリティ・リポート』『魔女の宅急便』『マッドマックス 怒りのデス・ロード』『魔法少女まどか☆マギカ』『マリアヌ』『万引き家族』『未知との遭遇』『港町』『身分証明書』『未来のミライ』『ムーンライト』『名探偵コナン』『めまい』『桃太郎 海の海兵』『モンスターズ・インク』『モンスターストライク』『山田孝之の東京都北区赤羽』『勇者ヨシヒコ』『雪の女王』『夜明け告げるルーのうた』『ラブ&ポップ』『ラブプラス』『ラ・ラ・ランド』『リアル～完全なる首長竜の日～』『リヴァイアサン』『リメンバー・ミー』『レッドタートル ある島の物語』『レディ・プレイヤー1』『惑星ソラリス』『わたしたちの家』『AKIRA』『Capture your journey with Google Glass』『GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊』『her/世界でひとつの彼女』『IT / イット “それ、が見えたら、終わり。』『KING OF PRISM by PrettyRhythm』『M/OTHER』『PARKS パークス』『Peace』『search/サーチ』『TENET テネット』『THE GUILTY/ギルティ』『the place named』『10クローバーフィールド・レーン』『15時17分、パリ行き』『1917 命をかけた伝令』『2 / デュオ』『2001年宇宙の旅』、ほか

わたなべ・だいすけ 1982年生まれ。映画史研究者・批評家。専攻は日本映画史・映像文化論・メディア論。著作に『イメージの進行形』(人文書院)、共著に『川島雄三は二度生まれる』(水声社)『スクリーン・スタディーズ』(東京大学出版会)『吉田健一ふたたび』(富山房インターナショナル)『アニメ制作者たちの方法』(フィルムアート社)『明るい映画、暗い映画 21世紀のスクリーン革命』(blueprint) など多数。

ゲンロン叢書 010
渡邊大輔

新映画論 3,300円 (税込)
四六判／並製、480頁(予定)
Cコード：C0074
ISBN：978-4-907188-44-3

ご注文

貴店名	ご担当者様	『新映画論』
		冊

直取引代行
トランスビュー

ゲンロンの商品は、トランスビューの取扱で納品いたします。直接取引の条件は、トランスビューの商品とすべて同じ(随時返品可)です。取次ルートの場合は、八木書店経由(買切・返品不可)になります。トランスビューとお取引がないお店からのご注文の際は弊社からご連絡いたします。

FAX. 03-6417-9231
株式会社ゲンロン
東京都品川区西五反田1-16-6 イルモンドビル2F
TEL. 03-6417-9230 (担当:久保田)